

加賀金沢 辰巳用水について

辰巳用水は、私にとって身近なものでした。昭和30年代前半、通学していた石引町小学校正門前を、県道を挟んで辰巳用水が兼六園まで流れていました。

その頃は、天徳院前から紫錦台中学校前までの旧上石引町及び旧中石引町の区間は、辰巳用水は殆ど暗渠でした。石引町小学校正門前は県道との間で用水上に橋が架けられ、下流の兼六園側は4～5m程開渠になっており、流れの左岸(県道側)に階段が有り洗い場が設けられていました。用水は約2m幅を数十cmの深さで滔々と流れていたと記憶しています。

その後、郷里を離れて会社生活をおくり、定年後に石引2丁目(旧白山町)の実家に戻ってから周辺の歴史、地理等に興味を持ち、その過程でこの本「城下町金沢の遺産 辰巳用水を守る 昭和・平成から味来へ」(編集・発行 NPO 法人 辰巳用水にまなぶ会)を読む機会を得ました。

本書は「はじめに」にありますように、終戦直後から現在まで、辰巳用水の保全・管理に尽力された畦地 實氏の口述歴史及び遺産であり、貴重な証言だと思います。更には後世への課題の提示でもあると思います。口述内容は、氏の話し言葉(金沢弁)で記載されており、忠実に記載することへの編集者の徹底さと共に氏の思いが伝わる様な気がします。畦地氏への聞き取りの音声テープは、金沢弁を話す人が少なくなりつつある状況からみて、民俗的にも貴重なデータになるのではないのでしょうか。

年少の頃、小立野台地の上を流れる辰巳用水が溢れる事があるのだろうか。もし溢れたら家は床下浸水の危険があるだろうと心配した記憶があります。本書に記載されている様に、昭和40年頃に大雨になると石引商店街で辰巳用水が溢れたようですが、幸い今まで辰巳用水の水が実家まで来たことはありません。

辰巳用水は、2010年に国史跡及び2018年に土木学会選奨土木遺産として登録され、現在使用されている設備はもとより関連遺跡が整備され保全されています。

末端部の伏越の理(逆サイフォン)関連は、遺構として最終取入口である霞ヶ池虹橋の二条石管路とその先端の石造り大柵があり、最終導水管の石管及びその説明銘板等が整備されていますが、何れも静的なものであり逆サイフォンをアピールする上で今一つインパクトにかける様に思われます。

逆サイフォンの吐出口は、用水築造当初は金沢城三ノ丸まで、その2年後には金沢城二ノ丸まで延長され幕末まで利用されています。

金沢城についてはこの7月に鼠多門と鼠多門橋が復元され一般公開されましたが、これに続いて金沢城二ノ丸御殿が復元にむけて調査・検討されているようです。

これを機に、当時の建築物・工芸品の復元だけではなく、兼六園霞ヶ池から辰巳用水を伏越の理で導水して二ノ丸御殿 御居間先に吐出口の噴水を復元して、逆サイフォ

ン技術をダイナミックにアピールしたらどうでしょうか。復元設備は出来るだけ遺跡を生かすことが望ましいですが導水管や敷設工事には最新技術を使ってコストパフォーマンスと保全の容易化をはかることも必要と思われれます。また導水された水は、内堀や庭園に利用し、最終的に防火・消火用とすることにより、辰巳用水築造当初の目的を現代に蘇らす事になると思います。

導水路は用水築造当初は木管が使用されました。これまでの発掘・調査で出土した木管を前述の石管及びその他の関連遺物と共に展示して、当時の卓越した逆サイフォン技術と測量・土木技術を説明する施設があればより一層の理解が深まると考えます。

本書で度々言及されています畦地氏の夢、「きれいな辰巳用水」が実現することを期待します。

土屋徳翁

2020年7月31日

金沢市石引2丁目在住

元三菱電機（株）